

事業所名 グループホーム亀山
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 1月 6日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 看護師、介護支援専門員
資格・経験 看護師(37年以上)、介護支援専門員
B:現職 介護支援専門員
資格・経験 介護支援専門員、介護福祉士、老人福祉施設(9年以上)
C:現職 介護支援専門員
資格・経験 音楽療法士、介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <p>基本理念として「誠心誠意、親切、優しさ」をモットーに最良のサービスを提供することを目指している。 具体的実践として ・「しまじょう」ではなく「しませんか」と入居者の自己決定を優先する。 ・さりげない声かけで自尊心を傷つけないように人の気持ちを尊重する心を大切にす。 ・「生活見直しシート」で「生活の見直しの必要性」をアセスメントし、その人らしさを支える。 以上のことを重視し支援している。この理念が実践されていることが、職員の入居者に接するときの常に穏やかな言葉かけや柔らかい物腰、入居者の穏やかな表情から感じ取れた。</p> <p>入居者とその家族および職員が共に幸せな気分を感じられる場作りに努力されていることが感じられた。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>入居者の過去の生活歴をもとに、今までの生活を出来るだけ崩さずに好きなことができるよう援助している。</p> <p>居間には中央の集合椅子以外に、コーナーにシッティングルーム(畳のベンチ)があり、入居者が自由にくつろげるようになっていた。廊下などのスペースにも自由にくつろげる椅子が設置してあった。生活空間としての安らぎのスペースが大いに感じられ、各居室には個人の好みの家具などが置かれており、それぞれのこれまでの生活歴を尊重していた。</p> <p>畑作りが楽しめる場所があり、四季折々の花と実が楽しめるような木々が植えられていた。入居者が不安や帰宅願望を示したときは、職員は入居者個々の特徴を把握して気持ちの安定が保てるよう配慮するなど、その方に寄り添う介護支援が出来ていた。また、入浴なども午後以外にも入居者の希望にあわせて夜間19時～21時に入れるなど、入居者のペースに合わせる工夫がされていた。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

調評
<p>全体を通して特に良いと思われる点など(記述)</p> <p>落ち着いた田園風住宅にも囲まれた静かな環境に立地している。瀟洒な洋風の2階建て鉄筋コンクリートの建物で、1階に1ユニット、2階には2ユニットあり合計3ユニットで構成されており、1階はデイサービスと併設されている。3ユニットある利点を大いに発揮し、夜間や緊急時の協力体制が図れている。</p> <p>入浴は19時から21時の間に出来るようになっており、家庭生活の延長を思わせるもので好ましい。デイケアと共有の機械浴もあり、介護度の重い方も入浴出来る。</p> <p>亀籠園グループの母体として伊木診療所があり、緊急時には24時間体制で対応できることは入居者家族にとって安心である。</p> <p>春の花見、秋の紅葉散策など、四季折々の行事がある。行事には家族も必ず参加し、協力が得られる。また、一泊旅行も行われており、ホームに閉じこもらないよう配慮されていた。</p> <p>民間企業としての特色を大いに発揮し、職員に働きやすい環境を提供することがサービスの質の向上に繋がり、入居者への介護に反映されている。各種書類が整備されており、記述内容も入居者の様子や心理面が細かく把握されており、ケアの質の向上に繋がっていることが明らかであった。</p>
<p>特に改善の余地があると思われる点(記述)</p> <p>2003年の開設以来、地域全体への知名度も高くなっている。最近では、中学生や婦人会のボランティアの受け入れが行われている。亀籠園グループ全体では、老健で介護教室も行われているとのことだが、いって言えば、今後はグループホーム自体の現在のしっかりした介護の体制の存在と機能を地域に浸透させるよう期待したい。</p>

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>過去の生活歴や楽しみなどとなっていたことの経験に目を向け、個人を尊重しながら集団の中で役割がもてるように支援していた。女性は調理の味付けや皿への盛り付け、男性にはゴミ集めなどの役目があり、自発的にされるよう誘導されていた。</p> <p>野菜作りでは、上手く耕せない職員に対して入居者の方が教えてくれ、そのことに対して褒めたり感謝の言葉をかけるなど入居者の経験を認める言動を常に行い、「その人の持っている力やその人らしい生活」が出来よう努力していることがうかがえた。</p> <p>壁には、入居者の現在の作品の貼り絵や絵手紙があった。2周年記念の展示物として、入居者が昔者かった頃に作成した油絵、水墨画、書道、着物、鎮物などが飾られていた。その人の人生が振り返られ、入居者の尊厳、過去の経験を大切にしていることがうかがえた。</p> <p>3ユニットの入り口は施錠せず錠をつけ、チャイムが鳴ることで入居者の出入りにすぐ気付くよう改善していた。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生と関係として、努力しているものは何か(記述)</p> <p>関連施設の亀籠園(老健他)があり、新人研修はそこで行われ知識技術の習得を済ませてグループホームに配属される。</p> <p>管理者は、研修に積極的に参加出来るよう勤務体制を配慮し、研修レポート作成による職員への伝達で知識の共有化を図り、ケアの質の向上につなげている。職員一人ひとりが、介護の知識、技術の向上のための意欲を持っていることがうかがえた。</p> <p>事故およびヒヤリハット報告書が書かれており、原因を追求し対策を立てることにより周知徹底を確実にし、今後「繰り返さない」という姿勢で業務に臨み、問題発生防止につなげている。</p> <p>床材の滑り止め、手すりの配置などのハード面に加え、業務に関わることや接遇に関わる重要な約束事を職員の目の付くところに貼って安全や接遇について周知徹底を図っている。</p>		